

東北森林管理局

山形森林管理署 もがみ支署通信

林業専用道等の整備を進めています

健全な森林を育てていくために必要な地拵え、下草刈り、間伐、木材搬出といった作業などを効率的・効果的に行う上で、路網(林等道)は重要な施設です。

この路網の一つに、「林業専用道」と呼ばれる道があります。林業専用道は、木材の搬出機能の向上等を目的に、大型トラックによる木材の搬出を想定した必要最小限の簡易な規格・構造の道です。

東北森林管理局では、林業の低コスト化に向けて、林業専用道の整備を推進しています。最上支署においても、平成29年度は、510mの林業専用道を作設しました。

最上地域は、県内で最も林業が盛んな地域であり、国有林に対しても、木材の安定的な供給が期待されています。このため、最上支署では、引き続き、林業専用道をはじめとする路網の整備を進め、安定的な木材供給に努めることで、地域産業の振興に貢献してまいります。



大又沢林業専用道(最上町)
(H29年度整備)



刃場川林業専用道(最上町)
(H28年度整備)

局・山形大学農学部 公開講座を開催!

東北森林管理局では、平成23年12月に、山形大学農学部と森林・林業の再生や地域振興の推進に向けた「連携と協力に関する協定書」を締結し、フィールドの提供や公開講座の開催等を行っています。

今年度は、2月2日に、山形大学農学部(鶴岡市)において、「人が動く、森が動く～市民参加による森づくり～」をテーマに講演とパネルディスカッションを行いました。

当日は、学生や地域の林業・木材産業関係者などが多数参加し、講演やパネルディスカッションに熱心に耳を傾けていました。



朝日庄内森林生態系保全センター
相澤所長による講演



山形大学農学部
菊池准教授による講演



多くの学生や関係者が参加



パネルディスカッションの様子

昨年10月に、最上町・県最上総合支庁・最上支署の3者合同で開催した一貫作業システム現地研修会の様子



多くの林業関係者が参加



当支署職員が作業手法について
丁寧に指導

平成30年度事業の準備を進めています

現在、最上支署では平成30年度に実施する各種事業の調整・確定作業を行っています。

来年度も、最上支署では、公益重視の管理経営の推進や民有林への技術支援などに積極的に取り組んでいきます。特に、林業の低コスト化に向けて、コンテナ苗を用いて伐採と造林を同時期に行う一貫作業システム※に積極的に取り組むとともに、同システムの一層の普及を進めることとして、準備を進めています。

※一貫作業システム

一般的には、立木を伐採する業者と苗木を植栽する業者は別々に契約・実施しています。このため、伐採業者が伐採後、時間をおいて(場合によっては数年後)別の業者が地拵えと植栽を実施します。

一貫作業システムでは、伐採・搬出後すぐに、伐採に使用した機械で地拵えを行い、植栽も同時進行的に実施することから、効率的な作業システムとして期待されています。



山形森林管理署 最上支署

TEL:0233-62-2122/FAX:0233-62-2706

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字木ノ下新林1793地内(仮庁舎)



国民の森林・国有林